

2 特別講演

2. 1 Learning To Become a Monkey Evolution of a Primatologist (生物分野)

(1) 研究開発の課題 (研究概要)

SSHの講演会では、研究室の中で行うミクロな研究内容の講演が多い。生物の講演は、特別研究と同じく、生徒の少ない体験でも、想像しやすくわかりやすいテーマ（ニホンザルやチンパンジーの学習行動）を選び、京都大学霊長類研究所マイケル・ハフマン准教授に講演を依頼して、フィールドワーク（野外観察）による研究の面白さおよびその重要性を紹介していただいた。また、講演は英語を主体としたものとし、英語による講演を聞く機会を与える。

(2) 研究開発の経緯

動物の行動を授業で扱ったあと、理解や興味を深めるために京都大学霊長類研究所のマイケル・ハフマン准教授に講師を依頼した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説 (ねらい、目標)

本事業は科学への関心や英語コミュニケーション力などの「科学リテラシー」や「国際性」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH生物特論

対象生徒 普通科3年理系生物選択者

日時場所 7月7日(金)本校 生物講義室

実施内容

講演 演題 「Learning To Become a Monkey Evolution of a Primatologist」

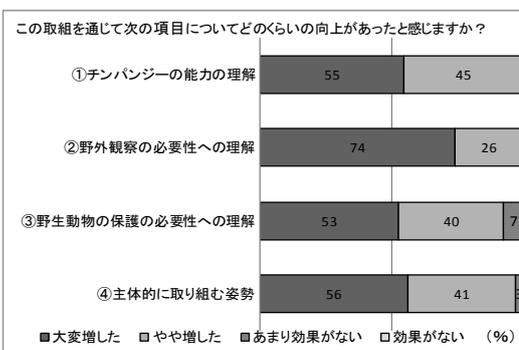
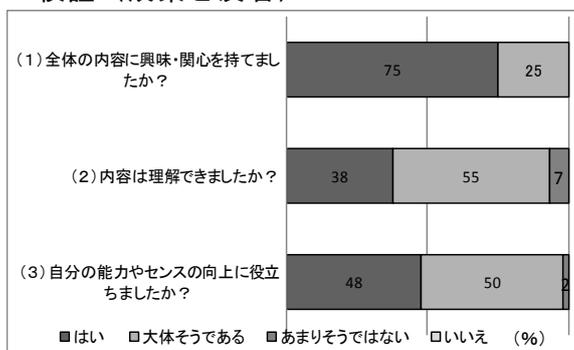
講師 京都大学 霊長類研究所 准教授 マイケル・ハフマン 先生

内容 サルの観察の方法、チンパンジーの薬草の利用、ヒトへの応用



熱心に聴く生徒たち

ウ 検証 (成果と反省)



生徒の感想から

- ・薬を用いるのは人類だけだと思っていたが、多くの動物が薬草を用いて自己治療を行っていることが興味深かった。
- ・動物が自己治療をしているのを見たモハメディー族の人が、その植物を利用して薬を見つけたことに驚いた。
- ・聞き取りやすい速さの英語だったので、よく理解できた。

アンケート結果や生徒の感想から、生徒にとって興味・関心が高まったことがわかる。フィールドワークに関する内容も比較的平易だったせいかよく理解できていたようである。また、英語が主体の講演に対しても肯定的な意見が多く、有効な取り組みであったといえる。この方式で来年度も続けて計画していきたい。